

感覚器

感覚器

視覚器

眼および関連する構造

視神経

眼球内部

篩板前部

篩板内部

篩板後部

眼窩部

管内部；視神経管部

頭蓋内部

視神経外鞘

視神経内鞘

鞘間隙

眼球

前極

後極

赤道

経線

外眼球軸

内眼球軸

視軸

眼球前区

眼球後区

眼胞

眼杯

眼球線維膜；眼球外膜

強膜

強膜溝

小柱網；櫛状靱帯

角膜強膜部

虹彩部；ブドウ膜部

強膜輪；強膜距

強膜静脈洞^(注1)

強膜上板

強膜固有質

強膜褐色板

強膜篩板

角膜

結膜輪

角膜縁

角膜頂

前面

後面

角膜上皮；前角膜上皮

前境界板^(注2)

角膜固有質

後境界板^(注3)

角膜内皮；後角膜上皮

眼球血管膜；ブドウ膜；

眼球中膜

脈絡膜

脈絡上板

脈絡外隙

血管板

脈絡毛細管板

基底膜

脈絡膜血管

毛様体

毛様体冠

毛様体突起

毛様体ヒダ

毛様体輪

毛様体筋^(注4)

経線状線維

縦走線維

放線状線維

輪状線維

基板

虹彩

瞳孔縁

毛様体縁

前面

後面

大虹彩輪

小虹彩輪

虹彩ヒダ

瞳孔

虹彩支質

瞳孔括約筋

瞳孔散大筋

[虹彩]色素上皮

虹彩角膜角櫛状靱帯

虹彩角膜角隙

大虹彩動脈輪

小虹彩動脈輪

[†]瞳孔膜

眼球内膜

網膜

網膜盲部

網膜虹彩部

網膜毛様体部

鋸状縁

網膜視部

視神経円板；視神経

乳頭

円板陥凹；乳頭陥凹

黄斑

中心窩

中心小窩

色素[上皮]層

虹彩色素上皮層

毛様体色素上皮層

網膜色素上皮層

神経層

視細胞層

外境界層；外境界膜

外顆粒層

外網状層

双極細胞層；内顆粒層

内網状層

視神経細胞層；神経

節細胞層

神経線維層

内境界層；内境界膜

網膜血管

網膜中心動脈

視神経血管輪

上外側動脈

下外側動脈

上内側動脈

下内側動脈

上黄斑動脈

下黄斑動脈

網膜内側動脈

中黄斑動脈

網膜中心静脈

上外側静脈

下外側静脈

上内側静脈

下内側静脈	上斜筋	上結膜円蓋
上黄斑静脈	滑車	下結膜円蓋
下黄斑静脈	上斜筋腱鞘	結膜囊
網膜内側静脈	下斜筋	結膜腺
中黄斑静脈	上眼瞼挙筋	涙器
眼房	浅板	涙腺
眼房水	深板	眼窩部
前眼房	眼窩筋膜	眼瞼部
虹彩角膜角	眼窩骨膜	排出管
後眼房	眼窩隔膜	†副涙腺
硝子体眼房	眼筋筋膜	涙河
小帯後隙	眼球鞘	涙湖
硝子体	眼球提靱帯	涙乳頭
†硝子体動脈	強膜外隙	涙点
硝子体管	眼窩脂肪体	涙小管
硝子体窩	眉	涙小管膨大
硝子体膜	眼瞼；まぶた	涙囊
硝子体支質	上眼瞼	涙囊円蓋
硝子体液	下眼瞼	鼻涙管
水晶体	眼瞼前面	鼻涙管ヒダ
水晶体質	瞼鼻ヒダ	平衡聴覚器
水晶体皮質	眼瞼後面	耳
水晶体核	眼瞼裂	内耳
水晶体線維	外側眼瞼交連	内リンパ隙
水晶体上皮	内側眼瞼交連	内リンパ
水晶体包；水晶体被膜	外眼角；めじり	外リンパ隙
前極	内眼角；めがしら	外リンパ
後極	前眼瞼縁	膜迷路
前面	後眼瞼縁	前庭迷路
後面	睫毛；まつげ	半規管
水晶体軸	上瞼板	前半規管
水晶体赤道	下瞼板	後半規管
水晶体放線	内側眼瞼靱帯	外側半規管
毛様体小帯	外側眼瞼縫線	半規管固有膜
小帯線維	外側眼瞼靱帯	半規管基底膜
小帯隙	瞼板腺	半規管上皮
副眼器	睫毛腺	[膜]膨大部
外眼筋；眼筋	脂腺	前[膜]膨大部
眼窩筋	上瞼板筋	後[膜]膨大部
上直筋	下瞼板筋	外側[膜]膨大部
下直筋	結膜	膨大部溝
内側直筋	結膜半月ヒダ	膨大部稜
外側直筋	涙丘	感覚上皮
外側直筋制動靱帯	眼球結膜	[膨大部]頂
総腱輪	眼瞼結膜	半規管脚

単脚
膨大部脚
総脚
内リンパ管^(注5)
前庭水管^(注6)
内リンパ囊
連囊管
卵形囊管
球形囊管
卵形囊
球形囊
平衡斑
卵形囊斑
球形囊斑
平衡砂膜
平衡砂
平衡斑条
感覚上皮
結合管
蝸牛迷路
前庭階
鼓室階
蝸牛管
頂盲端
前庭盲端
鼓室階壁：ラセン膜
基底稜
ラセン血管
基底板
ラセン器^(注7)
神経孔
ラセン板縁
前庭唇
鼓室唇
聴歯
蓋膜
内ラセン溝
外ラセン溝
網状膜
前庭階壁：前庭膜^(注8)
外壁
ラセン靱帯
ラセン隆起
隆起血管

血管条
ラセン神経節
外リンパ管^(注9)
蝸牛水管^(注6)
内耳血管
迷路動脈
前前庭動脈：前庭動脈
総蝸牛動脈
前庭蝸牛動脈
後前庭枝
蝸牛枝
固有蝸牛動脈
蝸牛軸ラセン動脈
迷路静脈
前庭水管静脈
半規管静脈
蝸牛水管静脈
総蝸牛軸静脈
前庭階静脈
鼓室階静脈
前庭蝸牛静脈
前前庭静脈
後前庭静脈
蝸牛窓静脈
骨迷路
前庭
球形囊陥凹
卵形囊陥凹
前庭稜
前庭錐体
蝸牛陥凹
篩状斑
上篩状斑
中篩状斑
下篩状斑
骨半規管
前骨半規管
後骨半規管
外側骨半規管
骨膨大部
前骨膨大部
後骨膨大部
外側骨膨大部

骨半規管脚
骨総脚
骨単脚
骨膨大部脚
前庭小管^(注6)
前庭小管内口
前庭小管外口
蝸牛
蝸牛頂
蝸牛底
蝸牛ラセン管
蝸牛軸
蝸牛軸底
蝸牛軸板
蝸牛軸ラセン管
蝸牛軸縦管
骨ラセン板
前庭板
鼓室板
ラセン板鈎
第二ラセン板
蝸牛孔
蝸牛小管^(注6)
蝸牛小管内口
蝸牛小管外口
内耳道
内耳孔
内耳道底
横稜
顔面神経野
蝸牛野
ラセン孔列
上前庭野
下前庭野
単孔
中耳
鼓室
室蓋壁
鼓室上陥凹
頂部
頸静脈壁
茎突隆起
迷路壁
前庭窓
前庭窓小窩

岬角
 岬角溝
岬角支脚
鼓室洞
蝸牛窓
 蝸牛窓稜
第二鼓膜
蝸牛窓小窩
サジ状突起
乳突壁；後壁
乳突洞口
外側半規管隆起
顔面神経管隆起
錐体隆起
キスタ骨窩
後洞
鼓索小管鼓室口
乳突洞
乳突蜂巢
鼓室蜂巢
頸動脈壁
鼓膜壁
鼓膜
 弛緩部
 緊張部
前ツチ骨ヒダ
後ツチ骨ヒダ
ツチ骨隆起
ツチ骨条
鼓膜臍
線維軟骨輪
耳小骨
アブミ骨
 アブミ骨頭
 前脚
 後脚
 アブミ骨底
キスタ骨
 キスタ骨体
 長脚
 豆状突起
 短脚
ツチ骨
 ツチ骨柄
 ツチ骨頭

ツチ骨頸
外側突起
前突起
耳小骨関節
 キスターツチ関節
 キスターアブミ関
 節
 鼓室アブミ骨結合
耳小骨靱帯
 前ツチ骨靱帯
 上ツチ骨靱帯
 外側ツチ骨靱帯
 上キスタ骨靱帯
 後キスタ骨靱帯
 アブミ骨膜
 アブミ骨輪状靱帯
耳小骨筋
 鼓膜張筋
 アブミ骨筋
鼓室粘膜
 後ツチ骨ヒダ
 前ツチ骨ヒダ
 鼓索ヒダ
 鼓膜陥凹
 前鼓膜陥凹
 上鼓膜陥凹
 後鼓膜陥凹
 キスタ骨ヒダ
 アブミ骨ヒダ
耳管
 耳管鼓室口
 耳管骨部
 耳管峽
 耳管蜂巢
 耳管軟骨部
 耳管軟骨
 内側板
 外側板
 膜性板
 粘膜
 耳管腺
 耳管咽頭口
外耳
 外耳道
 外耳孔

鼓膜切痕
軟骨性外耳道
 外耳道軟骨
 外耳道軟骨切
 痕
 耳珠板
耳介
 耳垂
 耳輪
 耳輪脚
 耳輪棘
 耳輪尾
対輪
 三角窩
 対輪脚
舟状窩
耳甲介
 耳甲介舟
 耳甲介腔
対珠
耳珠
前切痕
珠間切痕
耳介結節
耳介尖
後耳介溝
耳介上結節
耳介軟骨
 耳軟骨峽
 分界切痕
対珠耳輪裂
耳輪脚溝
対輪窩
甲介隆起
舟状窩隆起
三角窩隆起
耳介靱帯
 前耳介靱帯
 上耳介靱帯
 後耳介靱帯
耳介筋
 大耳輪筋
 小耳輪筋
耳珠筋
耳介錐体筋

対珠筋
 耳介横筋
 耳介斜筋
 †分界切痕筋
 嗅覚器
 鼻粘膜嗅部
 嗅腺
 味覚器
 味蕾
 味孔
 外皮
 皮膚
 皮膚小溝
 皮膚小稜
 皮膚支帯
 触覚小球
 †尾骨窩
 尾骨支帯
 割線
 表皮
 角質層
 淡明層
 顆粒層
 有棘層
 基底層：円柱層
 真皮
 乳頭層
 乳頭：真皮乳頭
 網状層
 皮下組織
 脂肪層
 疎性結合組織
 毛
 生毛
 頭毛
 眉毛
 睫毛
 須毛
 耳毛
 鼻毛
 腋毛
 陰毛
 毛包
 毛乳頭
 毛幹

毛根
 毛球
 立毛筋
 毛流
 毛渦
 毛十字
 爪
 爪床
 爪床小稜
 爪床小溝
 爪洞
 爪郭
 爪体
 爪根
 半月
 潛入縁
 外側縁
 自由縁
 痕跡爪皮
 上爪皮
 下爪皮
 爪角質層
 爪胚芽層
 爪支帯
 皮膚腺
 汗腺
 肛門周囲腺
 耳道腺
 脂腺
 乳房：ちぶさ
 乳頭：ちくび
 乳房体
 乳房間溝
 乳腺
 外側突起：腋窩突起
 乳腺葉
 乳腺小葉
 乳管
 乳管洞
 乳輪
 乳輪腺
 †副乳：副乳房
 乳輪結節
 乳房提鞅帯

感覚器の注

- 注 1** NA4 から NA3 で採用されていた組織学ならびに発生学に関する用語の多くが、それぞれ組織学用語 Nomina Histologica と発生学用語 Nomina Embryologica に移されている。しかし必要と考えられる用語は（昭 43）に従ってここに残した（昭 60）。
- 注 2** NA4 から視神経の各部を区分し、これらに用語が付された。配列順を変えて採用した（昭 60）。
- 注 3** 眼球膜の 3 膜は NA3 以来 Tunica fibrosa bulbi / vasculosa bulbi / interna bulbi とされ、「眼球線維膜／血管膜／内膜（昭 43）」が当てられてきていたが、不統一の感がある。NA4 から Tunica interna bulbi が Tunica interna (sensoria) bulbi として採用されたので、これを Tunica sensoria (interna) bulbi とし、また 3 膜の日本名の前二者にそれぞれ（眼球外膜／中膜）を付加し、後者を「眼球感覚膜（眼球内膜）」とした（昭 60）。
- 注 4** BNA、JNA、NA3 にはない。NA4 からの新用語である。"Uvea" は臨床で脈絡膜、毛様体、虹彩を総称する場合に使用され、眼球血管膜と同義である。脈絡膜はここである Pars uvealis に達していない。従って日本語は「虹彩部（ブドウ膜部）」とした（昭 60）。
- 注 5** 視神経が強膜を貫く部（昭 60）。
- 注 6** 同義語として（前角膜上皮）を付けた（昭 60）。
- 注 7** 「角膜内皮」と（後角膜上皮）を同義語とした（昭 60）。
- 注 8** 毛様体筋の筋線維の走向による分類についてはまだ意見の一致をみていない。NA4 から放線状線維と縦走線維が採用されている。しかし一部の委員は、縦走線維と経線状線維とは同じ筋線維であるとしている。また一部の委員から、ここに 4 群の筋線維群が認められるので、毛様体筋を眼球四頭筋と改訂してはどうか、との意見があったが、委員会はこの提案を認めなかった（NA5）。
- 注 9** 経線状線維と縦走線維については、（注 8）のように意見の一致をみていない点もあるので、日本名はこの形式を採用した（昭 60）。
- 注 10** NA3 以来、瞳孔の下項に瞳孔括約筋と瞳孔散大筋が配置されているが、これら 2 筋は瞳孔にあるのではなく、虹彩支質にあるので、その下段に移した（昭 60）。
- 注 11** 日本語には「虹彩」を付けた。なお、「虹彩内皮 Endothelium camerae anterioris」は NA4 からは削除された。
- 注 12** NA4 から網膜以下の用語の配列が改められたが、これを更に改変し、（昭 43）に従って必要と思われるものを残した（昭 60）。
- 注 13** （昭 43）の「神経細胞層」を改変した（昭 60）。
- 注 14** 網膜血管の日本名は全て（昭 43）に従った。
- 注 15** synovialis (NA3) から tendinis (NA4) への改変に従い、「上斜筋（の滑液）鞘（昭 43）」から「上斜筋腱鞘」に改めた（昭 60）。
- 注 16** 「眼窩筋膜」が移され、「眼窩骨膜」から「眼窩脂肪体」までがこの中に入れられた（昭 60）。
- 注 17** 膜迷路に前庭迷路と蝸牛迷路が区別された。膜迷路の下にこれらの 2 用語が新設され、NA4 / 5 でこの 2 用語は前庭迷路の項にも採用されている。しかし蝸牛迷路の項には採用されていない。したがってこの位置の 2 用語のみを採用し、前庭迷路に見られるものは削除した（昭 60）。
- 注 18** 日本名では、「外リンパ管の存在する骨小管 Canaliculus cochleae の静脈」として、BNA、JNA、NA2 で用いられていた「蝸牛小管静脈 V. canaliculi cochleae」を採用した（昭 60）。
- 注 19** 前骨半器官は上骨半器官とも呼ばれている（NA5）。
- 注 20** NA3 では「中耳」は「鼓室」と同義であるとした。しかし委員会では「鼓室」は「中耳」の一部である、という意見を認めた。フランスの委員は、「中耳」は鼓室、乳突部（乳突附属器）及び耳管の 3 部に区別できると示唆している（NA5）。
- 注 21** 皮膚科学用語では Dermis は合成語を作るときに使用されることが多いが、Corium は殆ど使用されない（NA5）。
- 注 22** この用語に続く皮膚の終末小体の用語は削除した（昭 60）。